

上毛高原駅を核としたまちづくり構想策定委員会（第1回）会議録

■ 日 時：令和3年10月22日（金）午後1時25分～午後2時55分

■ 場 所：みなかみ町月夜野農村環境改善センター 多目的ホール

■ 出席者

①上毛高原駅を核としたまちづくりビジョン策定委員会（13／14名）

森 健治、牧田 直己、茂木 法志、熊倉 浩靖、田村 秀、入内島 一崇
杉木 寿一、阿部 等、諸田 弘、小野 与志雄、高橋 宏之、持谷 明宏
宮崎 育雄

②事務局（7／7名）

みなかみ町商工会事務局長 田村 廣樹、みなかみ町観光協会専務理事 山賀 晃男、
観光商工課長 高野 明夫、主任 須田 啓介、
総合戦略課長 林 市治、室長 竹内 理恵、主幹 原澤 育男

■ 配付資料

①会議資料

資料1 上毛高原駅を核としたまちづくり構想策定委員会設置要綱
資料2 上毛高原駅を核としたまちづくり構想策定委員（名簿）
資料3 上毛高原駅を核としたまちづくり構想の策定方針（案）
資料4 上毛高原駅と他の新幹線駅の周辺地域の現状把握
その他 上毛高原駅を核としたまちづくり構想に関する意見書

②参考資料

- みなかみ町観光振興計画
- 第2次みなかみ町総合計画
- みなかみ町第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略
- みなかみ町都市計画マスタープラン
- みなかみユネスコエコパーク
- みなかみ町SDGs未来都市計画（三側面の取組と相乗効果のイメージ）

開会前に商工会の入内島一崇会長から町長へ「上毛高原駅」を「みなかみ」を入れた駅名にする要望書の目録が手渡され、その様子を上毛新聞社が取材した。

■ 会議内容

1 開会

2 委員の委嘱

- 鬼頭町長より代表者、入内島一崇3号委員に委嘱状が交付される。

3 町長あいさつ

町長 上毛高原駅の駅名の変更に関する取り組みは、昨年12月、商工会及び観光協会から駅名に関する請願を町議会が採択したことをはじめ、同じく商工会及び観光協会において、町内外の方々に署名活動を展開し、1万人を超える方々の意向を取り付けていただき、敬意を表するしだいです。

これらの駅名の変更に関する取り組みを受け、町としても上毛高原駅周辺地域が有する高いポテンシャルを活かし、賑わいのある持続可能な地域づくりを町全体に波及させることで、当町の認知度の向上や交流・関係人口の増加、そして定住人口の増加につなげていきたいと考えています。

そのため、様々な観点からご議論いただけますように学識経験者、商業、観光業の関係者、また町議員の皆様にご協力をいただき、上毛高原駅を核としたまちづくりについて、将来の在るべき姿をご議論いただき、ご提言をいただきたいと考えています。よろしくお願いたします。

4 委員自己紹介、事務局照会

- 各委員、事務局より自己紹介等が行われる。

<町長退室>

5 議事

(1) 委員長、副委員長選出

- みなかみ町上毛高原駅を核としたまちづくり構想策定委員会設置要綱第5条により次のとおり役員が互選される。

委員長：3号委員 入内島 一崇

副委員長：2号委員 熊倉 浩靖

- 要綱では、委員長が議事を進行することになっているが、当委員会では、政策アドバイザーの田村秀2号委員に進行していただくことで各委員にご了承頂く。

(2) 「上毛高原駅を核としたまちづくり構想」の策定（案）について

田村 基本的な方向性をしっかりと示すことが非常に重要である。

迅速かつ内容を充実させたものにしていかなければ、様々な関係者がいる中でうまくいかないことも考えられる。

事務局に説明願う。

事務局（資料3により、「上毛高原駅を核としたまちづくり構想」の策定方針（案）の説明）

- ・ 策定の背景として上毛高原駅の駅名を地域固有の名称に変更しようとする署名活動を伴った活発な活動が展開されているが、新幹線駅の駅名変更は前例として1件あるのみで、この実態から地域住民をはじめ広域的な視点からも共感できる取組が必要となる。
- ・ 構想では、地域づくりの視点として、上毛高原駅を核としたまちづくりを描くことが必要である。
- ・ 策定体制、関連する計画や施策等、構想の骨子、スケジュール等について

田村 （補足説明）新幹線の駅名変更が唯一あるのは、新山口駅である。そのほか駅名に関しては、一般の在来線だといくつかあるが、様々な関係者との協議、時間、財政的な面などいろいろあるので、今後情報提供していきたい。
まちづくりとなると、様々な関係者の理解が必要となる。いかに理解をしてもらうかその戦略も重要である。

高橋 上毛高原駅を起点とするならば、なぜ地元の区長を委員にいないのか。

事務局 まだ構想の段階で夢を語る場面というところで、特に地権者など具体的な方は呼んでいない。

高橋 開発など行うときは、必ず地元の意見を大事にしないとめ事になる。

宮崎 先ほど事務局より、オブザーバーとしていろいろ人を招聘できると説明があったが、当然地元の人たちの意見を聞くという場面も必要となってくる。そういう時に、地元の人達にこの委員会に来ていただき、いろいろな話をさせていただく。また、それとは別に事務局が直接地元の話をして意見集約を行ったり、議員さんにも足を運んでいただき意見を吸い上げてもらうなどの方法もとれるのでは。必要に応じて、地元の方や女性など招聘し意見を吸い上げるやり方がよい。

田村 こんな話し聞いてないとならないようにしっかりとした説明責任が早い段階で必要となる。委員ではなくてもオブザーバーという形で、はやめはやめに招聘していく。

もしかすると構想策定委員会の次のステップとして別途検討の場が必要となるのでは。30年、40年先を見据えた計画になるため、高校性、大学生、主婦など地元の方や周辺関係者に加わっていただく必要がある。

杉木 商工会、観光協会の立場から言わせてもらおうと1万人以上の署名を集めた段階でできるだけ早く駅名変更を進めてもらいたいという意見が大半だと思う。この資料中でいろいろな進め方が書かれているが、時間をかけて調査を行い、その結果を踏まえ、JRとの交渉では、駅名変更が遅くなる。委員会としてどのように考えているか。

諸田 北陸新幹線が開通（2024年）するが、駅名を変更するチャンスとして一つの駅だけでは、莫大な経費がかかる。いくつか変更する駅があれば経費が分割されるらしい。他の駅名変更と併せてスピーディに進めることができれば、経費の削減につながるのでは。

杉木 地域の意見や感じ方も大事だが、署名を集めることで、気持ちが盛り上がっている。町より駅名変更を先行しながら進めていくと言われたが、過去町が進めてきた他の委員会と同様の進め方だとだいぶ時間がかかってしまう。

熊倉 駅名変更は、JRの判断ではないと思う。国民的な合意をとっておく必要がある。その時にみなかみ町が日本で10箇所しかないユネスコエコパークに選ばれたこと、また、群馬県で一番はやくSDGs未来都市に選定された地域だから、その入口として「みなかみ」という名前の新幹線駅があるのは、当然だろうという合意を幅広く作っていくことが、まずは必要である。

まちづくり構想といってもここに建物を建てましょうではなく、上毛高原駅がみなかみ町にとっても日本にとってもどういう位置づけをもつのかを明らかにすることが前提になる。

海外からのお客を考えたとき、東京駅と成田空港から一番近くてかつ新幹線1本で来られるユネスコエコパークはここしかない。また、みなかみ町は多様な温泉があり、谷川岳は世界のアルピニストにとってもあこがれの山である。

世界の人が認めているその場所に行くのに地名でもない上毛高原駅では、日本としてみっともないでしょという国民的な世論を早急に作り、そのために駅名だけでなく、ここをこういう風開発していきますという絵を3ヶ月くらいの間で作

る。それをもってJRが英断しなければならないように準備することがよいのでは。

田村 理屈もなく駅名をかえてくださいだけでは、JRであれ、周辺の市町村の人たちであれ、なかなか納得しない。3、4ヶ月だがここで方向性を示しつつ、構想ができた後、来春には本格的にJR関係に情報発信していく。理想はJRの方から変えましょうだが、いろいろと働きかける。

駅名変更の時期は、先ほど諸田委員が言われた北陸新幹線の2024春の敦賀延伸のタイミングが現実的かと思われる。

まちづくりは、地権者の方などと合意形成が必要であることから、10年、15年かかるかもしれないが、両方進めていきたいと思う。

議会の方では、どのような感じか。

森 駅名変更に関して全協にて議員全員に話を聞いた。議会として駅名変更の誓願を採択しているので、反対はなかった。10年前の駅名変更の件に携わった議員もいたので、経費について心配している方がかなりいた。

今回若い議員も委員として参加しているので、移住者の知り合いも多く、こういった方の意見も取り入れることができると思う。

牧田 駅名変更できるのであればしたい。それを進めていくことに当たりどんなロジックを組むか、議会の中でいろいろなことを考えている段階である。共感できる取組は何かこの委員会の中で話し合いたい。

茂木 上毛高原駅がこういったことをキッカケに新しくかわっていく。日本がコロナ禍においてこの先変わらなければいけないところで、みなかみ町としてもチャンスをものして行きたい。

裏付けをしっかりとったうえで駅名を変更していく、企業版ふるさと納税等の活用など、議論しながら共感をどう得るかが重要。

○上毛高原駅を核としたまちづくり構想の策定方針（案）が承認される。

(3) 構想の骨子

①上毛高原駅と他の新幹線駅の周辺地域の現状

田村 上毛高原駅の現状を理解する上で、戦略を立てる必要がある。
事務局に説明願う。

事務局（資料4により、「上毛高原駅と他の新幹線駅の周辺地域の現状把握を説明する。」）

- ・上毛高原駅、安中榛名駅、佐久平駅、那須塩原駅の状況等の説明、上毛高原駅以外の3駅は区画整理等大規模に開発を行っている状況である。
- ・上毛高原駅周辺の都市計画用途区域の説明

田村 （補足説明）上毛高原駅—東京駅間が以前66分だったが、大宮駅—東京駅間が速くなり、65分と1分速くなった。

佐久平駅の二期目の土地区画整理がかなり進行している。長野方面だと佐久市はまちとしての勢いがでている。

上毛高原駅は定期券の利用者が少ないが、今後まちづくりが進んでいけば、利便性からも住みたいと思う人もでてくると思う。

来年（2022年）の秋に長崎新幹線の武雄温泉まで開通するが、つながるのは未定。

北陸新幹線は、2024年の春に金沢から敦賀まで延伸する。

北海道新幹線は2030年度とっているが、おそらく札幌でオリンピックが開催されると前倒しということも考えられる。

リニアはいつになるか分からない状況である。

持谷 過去に上毛高原駅では、安中榛名駅のような住宅地を開発する取組はなかったか？

事務局 正しい情報が分からないがリゾートが盛んな時にJRが3000戸住宅を建てる話があったと記憶している。

田村 まちづくりとして進めるには、21世紀型というか持続可能な、また素晴らしい景観もあるので、ユネスコエコパークのゲートウェイとして地域のポテンシャルを活かした形が望ましい。

新幹線の駅名で1番長い名前は7文字で「黒部宇奈月温泉」、「奥津軽いまべつ」がある。

熊倉 各駅利用者の利用区分を比較すると、安中市の人口はみなかみ町の人口の3倍いるが、上毛高原駅の利用者数は、安中榛名駅の2倍の利用者数がある。現状でも上毛高原駅は人が使っている駅になっている。

ただ定期利用者の割合が少ないということは、目的地で上毛高原駅を使っている。観光を中心とするみなかみの今までのまちづくりはゲートウェイとして機能してきた。

東京で上毛高原はどこか多くの人分からない。ますます機能させるため、みなかみという名前の新幹線駅があれば一つ大きな流れとなる。

また、2つの顔をもつかどうかまちづくりの中で検討したほうがよい。

この資料から軽井沢、越後湯沢はカットしているが、軽井沢は目的地、新しい居住地の2つの顔をもっている。みなかみ町も軽井沢に匹敵するポテンシャルを持っているため、2つの顔をもつためにも、駅名にみなかみがついた新しい駅名のゲートウェイが必要である。これからのポストコロナとかワーケーション、テレワークセンターも整備され、人々の新しい暮らしの在り方としてここで定住しながら、あるいは時々他地域に移動しながら暮らす人々の第2の場所として上毛高原駅を位置づけられるか、2つの戦略を書いていくことがまちづくり構想の柱になるのでは。

まずは大きな方向性を定めて、その中でだからこの駅名はこう変更すべきことが共感を得るんだというロジックを作ることが大切である。

田村 まちづくりをするのは、ラストチャンスである。ここを逃したらみなかみにとってはこういうことは二度とできない。迅速にかつしっかりとした戦略を持って進めていく必要があるので、ご協力いただきたい。

(4) 次回委員会の開催について

- 次回の委員会について、次のとおり日時が決まる。

日時：11月19日（金）午前9時30分～11時まで

場所：決まり次第通知

- その他

第1回委員会を踏まえた意見や発言できなかったこと等ある場合は、11月1日（月）までに意見書（資料P11）の提出をお願いした。

6. 閉会

入内島委員長

大変意義深い意見を頂戴した。特に商工会、観光協会は痛んだ地域経済を活性化させるため、地域住民のどうかしてもらいたいという熱い気持ちをぶつける

ことが大事だということで、1万人からの署名を集めた。

大きな大義名分のある戦略論の中で、地元の結束力を高めると同時に外部の関心を引きつけるための組み立てをしなくてはならない。その中で旗印が大事であり、旗印がなければ人もモノも集まらない。今考えられる一番の旗印は、上毛高原駅の駅名を「みなかみ」をいれた名前にすることである。

今後の方向性と今ある熱を冷まさないようにどうするか数ヶ月の間に考え、町のため、将来の子どもため、世界が認めている自然財産を活かしていろいろな力を引き寄せるため頑張っていきたいので、よろしく願いたい。